

# 令和8年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

【第2回】

令和8年6月2日（火） 午後6時～ 場所：総合学習センター

講師：算数・数学科指導員 甲山中 神谷 尚希 先生

## ■深い学びのある授業についての講義

今回の読書会では、神谷先生に「深い学びのある授業」についてのご講義を行っていただきました。その中で、「算数科の深い学びを实践する 21の授業づくり」に掲載されている「繰り上がりのある加法」の单元の中で、「どのような数学的な見方・考え方が、なぜ働くか」というテーマで3つの工夫のポイントを紹介し、解説していただきました。以下に内容を報告します。

### 数学的な見方・考え方

繰り上がりのある加法では、「加数または被加数を分解して10のまとまりをつくる」ことがポイントである。答えが10をこえるたし算を考えると

① 10の補数 ② 5の合成・分解 ③ 10といくつの3段階で考えていく。ここで、数図ブロックを使いながら、操作⇔図⇔式と関連付けて計算を抽象化していく。ここに**筋道を立てた見方・考え方**を働かせて問題解決をしていく。

また、加数分解、被加数分解を比較し、共通点を見つけることで、**統合的な見方・考え方**を働かせ、10のまとまりをつくり、10といくつと捉えることが大切である。



### なぜ数学的な見方・考え方を働かせたか

#### ○工夫1 教材「卵パック」

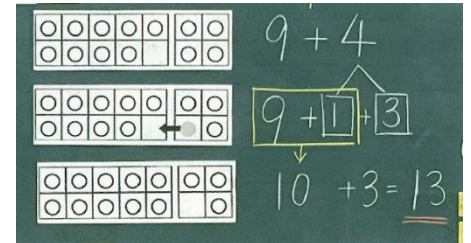
最大の工夫であり、日常生活の中にある物である。主流は10個入りパックであるが、4個入、6個入、12個入もある。日常生活にあるからこそ使用に不自然さがなく、児童も受け入れやすい。「どれを使ってもよい」と伝えることで、児童は10個入りのパックを選ぶと、10のまとまりを意識しやすいと気付くことができる。



#### ○工夫2 割れちゃうから数図ブロック

「卵は割れやすいので、みんなは数図ブロックを使ってみてね」と伝えることで、半具体物による操作活動に移りやすくなる。卵パックを生かし、10のまとまりをつくり「10といくつ」にする見方・考え方について操作を通して理解できるようになる。

加えて操作活動と操作図で加数分解、被加数分解の共通点や相違点（効率的、合理的な点）を見つけやすくなる。



#### ○工夫3 発問

##### 筋道を立てた見方・考え方

- T 「どの考え方が分かりやすいと思いますか。」  
C 「10と残り3だから13と分かりやすい。」  
C 「いちいち数えなくても…残り3個を10個にたせば答えは分かります。」（十進位取り記数法を基にして考える）
- T 「どちらが分かりやすいですか。」  
C 「動かす数が少ない方が早くできるので、イの方が分かりやすいと思います。」  
（加数分解のよさを実感）

##### 統合的な見方・考え方

- T 「なぜ分かりやすいのでしょうか。」  
…同じところを探してみましょう。」  
C 「10個パックを使っているところが同じ。」  
C 「『10といくつ』にしています。」
- T 「なぜ10のまとまりをつくとよいのですか。」  
C 「数えやすい。」  
C 「10といくつですぐに数が分かった」  
C 「イの方法もウの方法も10といくつと答えがすぐ分かる。」

今回は神谷尚希先生に「深い学び」についてご講義をいただきました。短い時間ではありましたが、今年度の読書会で追究していく「深い学び」について、本の内容を基に学ぶことができ、大変実りのある時間となりました。今後も多くの先生の授業力が向上するよう努めてまいります。ご参加をお待ちしております。